今年の年女　福原　千代さん

昭和9年生まれ戌年

年男・年女は年神様のご加護を多く受け、縁起が良いとされています。今年の年女である入居者の福原千代さんに今までどんな人生だったのかお話を聞きました。

千代さんは愛知県の一宮市で生まれ、お兄さんと2人兄妹。両親を早くに亡くされ、お兄さんに育ててもらったそうです。

社交的で運動神経抜群だった千代さんは、水泳が得意でクロールの選手として色々な大会に出場されました。大阪の学校を卒業後は、大丸百貨店で働くようになります。そこで、荷物の搬入に出入りしていた喜三郎さんと出会いました。「私が仕事を終わるのを従業員口でいつも待っててん。友達があの人いい人やんって勧めるしな、ほんならコーヒーだけでもって喫茶店に行ったのがはじまりや。あんたな、結婚は顔でしたらあかんで。やさしい男が一番や」と、2人の馴れ初めを話してくれました。

長く大阪で生活をしていましたが、「年をとったら静かな所で暮らしたい」と考え、新聞で東白川の記事を見つけ「ほんなら1回いってみよか」と訪ねてきたことがきっかけで、東白川での生活が始まりました。

初めは慣れない暮らしに戸惑うこともありましたが、近所の方が親切にしてくれたので、ここへ来てよかったなと思うと話してくれました。

今年のお正月は旦那さんが千代さんの部屋に泊まられ、夫婦水入らずの時間を過ごされました。昔はたばこのにおいでよく喧嘩をしたと言われた千代さん。面会に来られる旦那さんに「ガソリン代がもったいなからな、そんなに来なくていいって言ってんねんけどな」と言いながらも、見えなくなるまで見送りされる姿を微笑ましく思います。

将来は2人でサンシャインに入って暮らせたらいいなと考えているそうです。

▲千代さんと喜三郎さん

サンシャイン周辺探訪・名倉ダム②

先回に続き名倉ダムを取り上げます。野原集落にある名倉ダムの取水口から下流の発電所へ向かって2本の導水路が地中を伸びています。

1本目は、葛牧集落を経て名倉発電所に至る約5㎞の導水路です。1936（昭和11）年に名倉ダム・発電所の建設と同時につくられました。当時、掘削土の搬出口があった葛牧には、作業員の飯場や工事のための製材所があり、雑貨屋や飲み屋もできて賑わったそうです。

2本目は、JRの鉄橋付近で、野原から広島集落側へ飛騨川をサイフォンでくぐり、大利集落の牧ヶ洞あたりを経由、七宗国有林の地中深くを進んで、新上麻生発電所に至る、総延長約11㎞の導水路です。

この導水路は1987（昭和62）年、新上麻生発電所の建設に伴い掘られました。ここで発電に利用された水は、さらに飛騨川の下をサイフォンで通り、1・5㎞先で飛騨川に放出されています。

二つの導水路には、それぞれ最大で、毎秒80tの水が流れています。飛騨川は流れが急で水量が多いため、大正期から水力発電のダムが建設されてきました。白川町河岐には、1926（大正15）年に建設された上麻生ダムもあります。

▲名倉ダムからの導水路